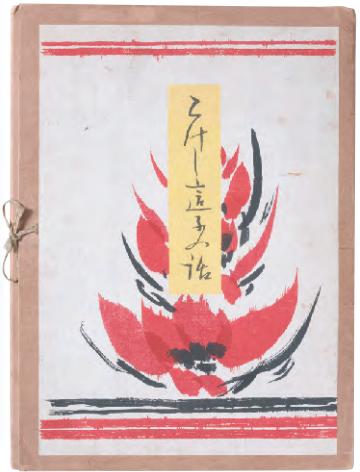


仙台の遺産

バックナンバーは
白松がモナカHPにて公開中です

[こけし]

江戸末期頃から、東北の木地師によって作られ、温泉地などで売られた子供の手遊び人形。師匠から弟子へと受け継がれ、各地で特徴的な顔形や模様があり、鳴子系、作並系、遠刈田系、弥治郎系、肘折系など、おもに11の系統がある。素朴な美しさが時代を超えて愛されている。



昭和3年1月、天江富弥が自費出版した「こけし這子の話」。日本初のこけし専門書で、今につながるこけし人気と研究のきっかけとなった。



(左) 高橋胞吉(仙台)の作品。
制作数も少なく、わずかしか残っていない。
(中・右) 平賀謙蔵(作並)の作品

昭和初期、愛好家の垂涎の的だった「仙台こけし」とは?

天江富弥(前列中央)らによって結成された「仙台小芥子会(せんだいこけしかい)」の会員たち(昭和52年)。

昭和のはじめ、全国の愛好家が求めてやまないこけしがありました。仙台市八幡町に住んでいた木地師、高橋胞吉(えなきち)【文久1~昭和14】晩年の作品です。哀愁を帯びた伏し目がちな表情が、東京・大阪など都会の人々の心を捉え、「仙台こけし」として人気番付の東の横綱に置かれるほどでした。

その胞吉を見い出したのは、童謡作家で郷土玩具研究家の天江富弥(明治32~昭和59)。同じ八幡町の造り酒屋「天賞」の三男だった富弥は、路地裏で木地を挽く胞吉にこけし作りを依頼。そのできばえに驚きました。昭和3年、こけし専門書「こけし這子(ほうご)の話」を著し、胞吉こけしも紹介したのです。

富弥の偉業を引き継ぐようにこけし研究に情熱を注ぐ、「仙台郷土玩具の会」会長の高橋五郎さんは、昭和56年、仙台市内の旧家で重要な古文書を発見します。万延元年、作並の伝説的木地師岩松直助が、弟子の小松藤右衛門に与えた免許皆伝書「萬挽物扣帳」(よろずひきものひかえちょう)でした。

胞吉が若き日、職人として働いたのは藤右衛門の弟の仕事場。胞吉こけしが作並につながることを明らかにしたのです。弟子を取らなかつた胞吉の死後、その作風は鈴木清(明治30~昭和55)によつて再現され、その子昭二、孫の明さん(秋保在住)へと受け継がれています。

一方、作並こけしは、直助の孫弟子、平賀謙蔵(明治20~昭和24)、その子謙次郎、孫の謙一さん、ひ孫の輝幸さんら地元の工人が継承。富弥が残した膨大なコレクションと高橋さん(秋保在住)が収集したこけしは青葉区川内の「仙台こけし洞」(高橋さん自宅)で公開されています。

質・量共に日本一のこけしコレクションと評される「仙台こけし洞」と高橋五郎さん。貴重なこけしが3000本以上(要予約。電話022-221-21479)。

高師が残した膨大なコレクションと高橋さんが収集したこけしは青葉区川内の「仙台こけし洞」(高橋さん自宅)で公開されています。長い年月の研究結果は「癒やしの微笑み」と題された新書として刊行されています。(価格1,728円 税込)

お中元に…… 白松が水ヨーグン

さらに美味しいな 水甘納豆

1個 237円
※表示価格は消費税込みです。

店舗
限定

直営店/通信販売部/県内デパート/仙台駅おみやげ処2/エスパルモール長町/セラピック町/イトーヨーカドー(泉、あいのわ)ヨークベニマル(矢本、小牛田、岩沼、亘理)のみの取扱いとなります。